テーマ：砂・土・泥

第1回　10月

矢の口幼稚園　乳児部　２歳児クラス（ぶどう組）

テーマを設定する

日常的に触れる機会の多い砂を中心に様々な感触、遊びを経験できるように、広い砂場でダイナミックに砂・土・泥遊びを味わう。

環境をデザインする

○準備　砂場の改築　砂場玩具　水路

活動スケジュール

活動内容	時間
素手で触れる	１０分
砂場道具を用いて表現を楽しむ	２０分
砂場道具を１度片付けて、そこに水を加えて泥に変更し、肌で泥に触れ合い感触の違いを楽しむ	１０分
再度、砂場道具を出して泥で遊びを楽しむ	２０分

探究活動を実践する

○活動内容

裸足になり、全身で砂や泥に触れ合う。
砂・土・泥の形状変化を感じ、どのように変化するのか探究する。





○子どもたちの様子

- 埋めた手を中で動かすと、砂の動きを面白がる
- 手のひらに砂を乗せてお団子を作ろうとする
- カップやコーンなどを使ってケーキやアイスを作って、ごっこ遊びをする
- 水を入れて泥にすると素手で触って嬉しそうにする
- 泥の中に靴で入り、嬉しそうに保育者に「靴脱いでもいい？」と尋ねる
- 「冷たい！」と触った感触を言葉で伝える
- 水路に水を流すと「なんで水がなくなっちゃうんだろう。」と水がなくなっていることに気付く。
- 水路に乗り物の玩具を走らせて遊ぶ。

○振り返りを踏まえた気付き

スコップを使わないで、素手で砂・土・泥に触れる機会が少ないことに気が付いた。
今後も積極的に機会を作るとより感触を楽しめるように思う

テーマ：砂・土・泥

第2回　11月

矢の口幼稚園　乳児部　２歳児クラス（ぶどう組）

環境をデザインする

○準備　型抜きカップ
始めは水分の少ない砂場遊びを行い、徐々に変化させる

活動スケジュール

活動内容	時間
水分の少ない砂で型抜カップに砂を入れる	20分
水を足して型抜きカップで遊ぶ	40分

探究活動を実践する

○活動内容
手で砂に触れる活動は引き続き行うさらに、カップなど形作れる玩具を用意し、砂や泥を使い形作ることの面白さを探究する

○子どもたちの様子

- 砂場に自分の足跡が付いたことに気づき「○○の足！」と保育者に伝える。
- 型抜きした物を「おにぎり」「さかな」「たこやき」と言い保育者に見せる。
- 水を撒き、砂を湿らると、「ベタベタ」「冷たい」と感触を話す。
- カップとカップを合わせ、アイスを作る。その様子を見て、他の子が真似しようとする。保育者がやり方を伝えるとその姿を見た別の子が「アイスどうやって作るの？」と保育者に質問。「どうやったらできるかな？」と問いかけ、その後作り方を説明すると、アイスが完成し保育者に見せたり、食べる真似をしていた。
- シャベルを使わずに遊ぶ活動が２回目だったこともあり、抵抗なくできる子が増えた。
- 型抜きのみの活動で型抜きを繰り返すことで、少しずつ形がはっきりとした物を作ることが出来た。





○振り返りを踏まえた気付き

- 砂の感触、温度を感じていた。
- 手で行うことで砂をぎゅっと型に押し当てることが出き、形がきれいにできるようになった。
- カップとカップを合わせてアイスを作る発想をしていた。より遊び方が広がった。
- お友達や先生とかかわり合いを楽しみながら遊びを広げていたので、関わり合いが楽しめるような環境設定を今後も行いたい。

テーマ：砂・土・泥

第3回　12月

矢の口幼稚園　乳児部　２歳児クラス（ぶどう組）

環境をデザインする

- 砂場用型抜きカップ、水、キッチン、水路・スコップ
- 事前に砂を濡らす。
- 子ども達が型抜きを十分に楽しんだら、一度声を掛けてキッチンを設置する。

活動スケジュール

活動内容	時間
水路を配置し、水を流す	15分
型抜きを行う	15分
キッチンを設置する	30分

探究活動を実践する

○活動内容

　カップなど形作れる玩具を用意し、砂や泥を使い形作ることの面白さを味わい、ままごと遊びを通じてやり取りも楽しむ。

○子どもたちの様子

- 水路を紹介すると気付いたことや感じたことを言葉にして発見を楽しむ姿が多く見られた。
- 水を流すと水路を配置する向きでうまく流れないことに気づく。
- 山作りに取り掛かる。自分達で作った山に水路を設置し、保育者が水を流した際に「できた」「山から水が流れた」など達成感や満足感を感じる姿が見られた。
- 葉っぱを流すことで、水の流れる速さや流れ方の違いに気付く。終盤には、水が流れない時には葉っぱも止まることにも気付く。
- プレートに型抜き玩具や土をのせる。
- 完成したプレートを保育者に「どうぞ」「できたよ」と運んでいた。
- 「コーヒー」「ケーキ」と完成品を見立てる。





○振り返りを踏まえた気付き

- 疑問に感じたことを保育者と一緒に試して気付き、学ぶという力が少しずつ育ってきていることに気付くことができた。また、試行錯誤して自分でやってみようとする姿や自分でやりたいという気持ちが育っていることに気付いた。
- 活動を重ねていく中で、道具を使うだけでなく手で直接触れることで砂や水の感触を感じながら遊ぶ姿が増え、改めて素材そのものに関わる大切さを感じた。
- 困り感（完璧な状態が整っていない環境）が探求心や団結力（クラスで一つの山を作ること）を引き出す良い機会になった。
- 水路に葉っぱを流したことにより、流れ方や流れる速さの変化に気付くことができた。次回は葉っぱだけでなく様々な物を用意することで物の重さによっての流れ方の比較ができるといい。（石、木の枝など）
- 環境や素材などを工夫していくことで子ども達が自分で気付いたり、やってみようとする時間を大切にしていきたい。そのような時間を大切にしていくことで、子ども達の考える力や自分の思いを自由に表現する力、試行錯誤してみる力が育っていくと考える。